

石川啄木

現代日本文学アルバム―4

# 石川啄木

---

---

監修委員

川端康成

井上 靖

編集委員

足立卷一

奥野健男

尾崎秀樹

北 杜夫

---

---

現代日本文学アルバム

第4巻

石川啄木

昭和49年8月15日 初版発行



発行人 古岡秀人  
編集責任者 桜田 満  
発行所 株式会社 学習研究社

東京都大田区上池台4丁目40番5号  
郵便番号 145 振替 東京 142930  
電話 東京 (03) 720-1111(大代表)

印刷・製本 図書印刷株式会社  
製函 永井紙器印刷株式会社  
本文用紙 三菱製紙株式会社  
表紙 特種製紙株式会社

---

\*この本に関するお問合せやミスなどがありましたら、  
文書は、東京都大田区上池台4丁目40番5号(〒145)  
学研 ユーザー・サービス部  
現代日本文学アルバム係へ  
電話は、東京 (03) 720-1111 または  
東京 (03) 727-1600 へお願いします。

---

©1974 Printed in Japan

---

---

# 目次 TAKUBOKU ISHIKAWA



## 目次

石川啄木文学へのいざない・望郷と漂泊と…………… 5

石川啄木文学紀行／漂泊の愁ひを叙して…………… 井上 光晴 61  
成らざりし

石川啄木文学旅行ガイド…………… 浦田 佑 93

石川啄木の素顔…………… 109

石川啄木とその時代……………橋川 文三 173

石川啄木主要作品鑑賞小辞典……………岩城 之徳 205

年譜……………岩城 之徳 221

著作目録……………岩城 之徳 229

主要参考文献……………岩城 之徳 231



# 石川啄木文学へのいざない



略画・中津川

明治四十年、二十二歳の啄木は「日本一の代用教員」たらんとする夢に破れ、「石をもて」ふるさとから追われた。そして「頬の寒き流離」の旅人となって北辺を彷徨し、二十七歳にして東都の「罨」に倒れるまで、ついに再びふるさとの土を踏むことはなかった。しかし、ときとして狂おしいまでに彼をとらえた望郷の思いは、かずかずの不滅の絶唱をうんだ。そのしらべはうつくしくも、あまりに傷ましい。

## 望郷と漂泊と



資料提供  
石川玲児  
岩城之徳  
  
新井光雄  
伊藤信四郎  
浦田敬三  
大村次郷  
川並秀雄  
北村昌次  
金田一京助(故人)  
越崎宗一  
佐藤正平  
清水三郎  
高橋 清  
滝浦みどり  
土岐善麿  
奈良真一  
鳴海完造  
平出 禾  
藤沢 全  
堀合了輔  
宮崎捷郎  
遊座昭吾

朝日新聞社  
石川啄木記念館  
岩手大学  
岩手日報社  
小樽啄木会  
国立国会図書館  
市立函館図書館  
日本近代文学館  
函館啄木会  
文京区立鷗外記念本郷図書館  
毎日新聞社  
盛岡市立下ノ橋中学校  
盛岡第一高等学校  
読売新聞社  
(五十音順敬称略)

編集スタッフ  
編集責任  
桜田 満  
編集担当  
木幡英次  
校正  
須山康邦  
  
写真  
成田牧雄  
  
地図製作  
玉木図版社

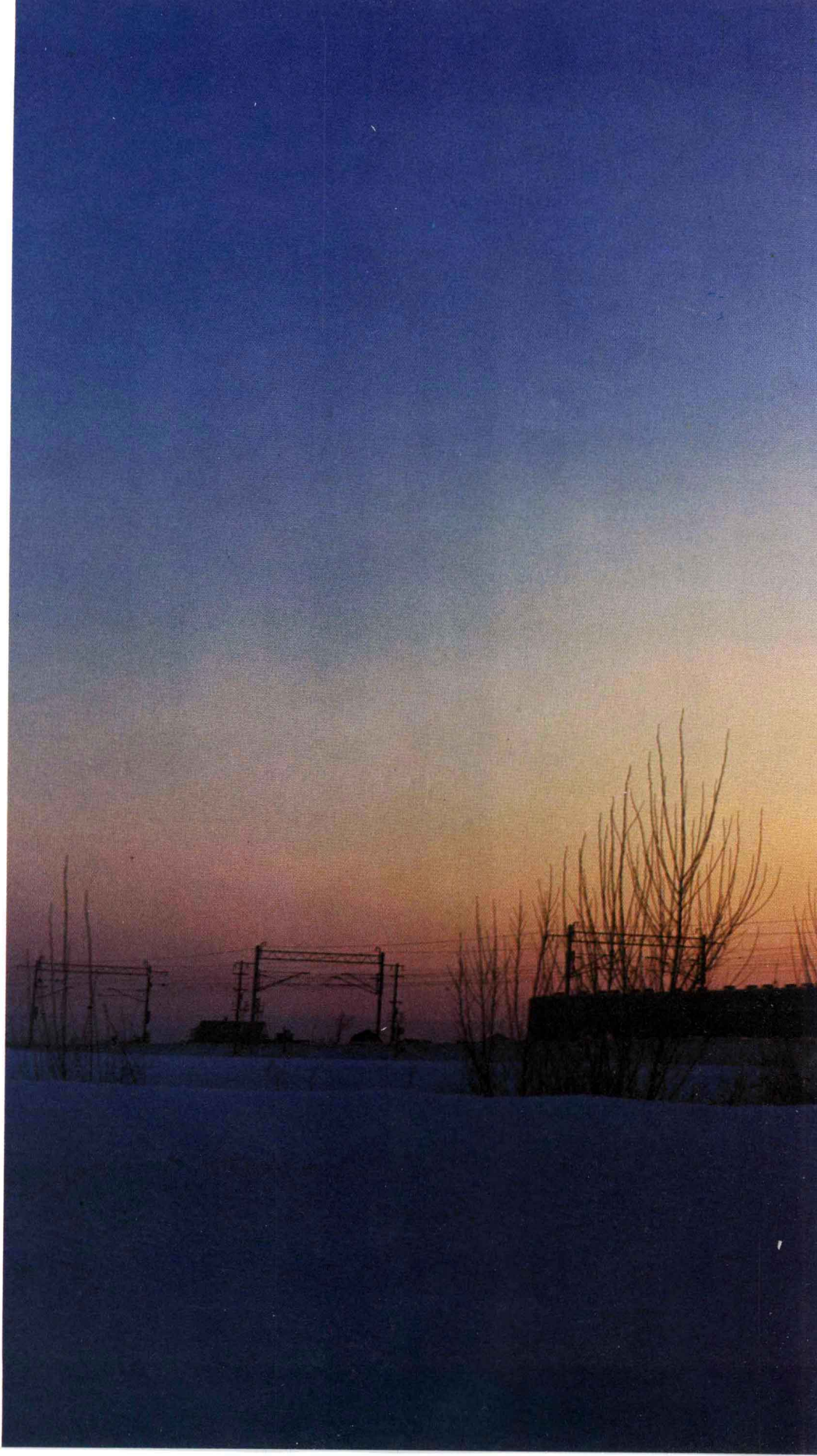
---

装幀 大川泰央

レイアウト 大川泰央

うす<sup>あか</sup>紅く雪に流れて  
入<sup>いり</sup>日<sup>ひ</sup>影<sup>かげ</sup>  
曠<sup>あらの</sup>野の汽車の窓を照<sup>てら</sup>せり

忘れ来<sup>き</sup>し煙<sup>たばこ</sup>草を思ふ  
ゆけどゆけど  
山なほ遠<sup>とほ</sup>き雪の野の汽車







玉山村 茨民・宝徳寺

ふるさとの寺の御廊に  
踏みにける  
小櫛の蝶を夢にみしかな

ふるさとの寺の畔の

ひばの木

いただきに来て啼きし閑古鳥！

しんとして幅広き街の

秋の夜の

玉蜀黍の焼くるにほひよ

わが宿の姉と妹のいさかひに

初夜過ぎゆきし

札幌の雨









しらしらと氷かがやき  
千鳥なく

釧路の海の冬の月かな

さらさらと氷の屑が

波に鳴る

磯の月夜のゆきかへりかな



網走港の流水



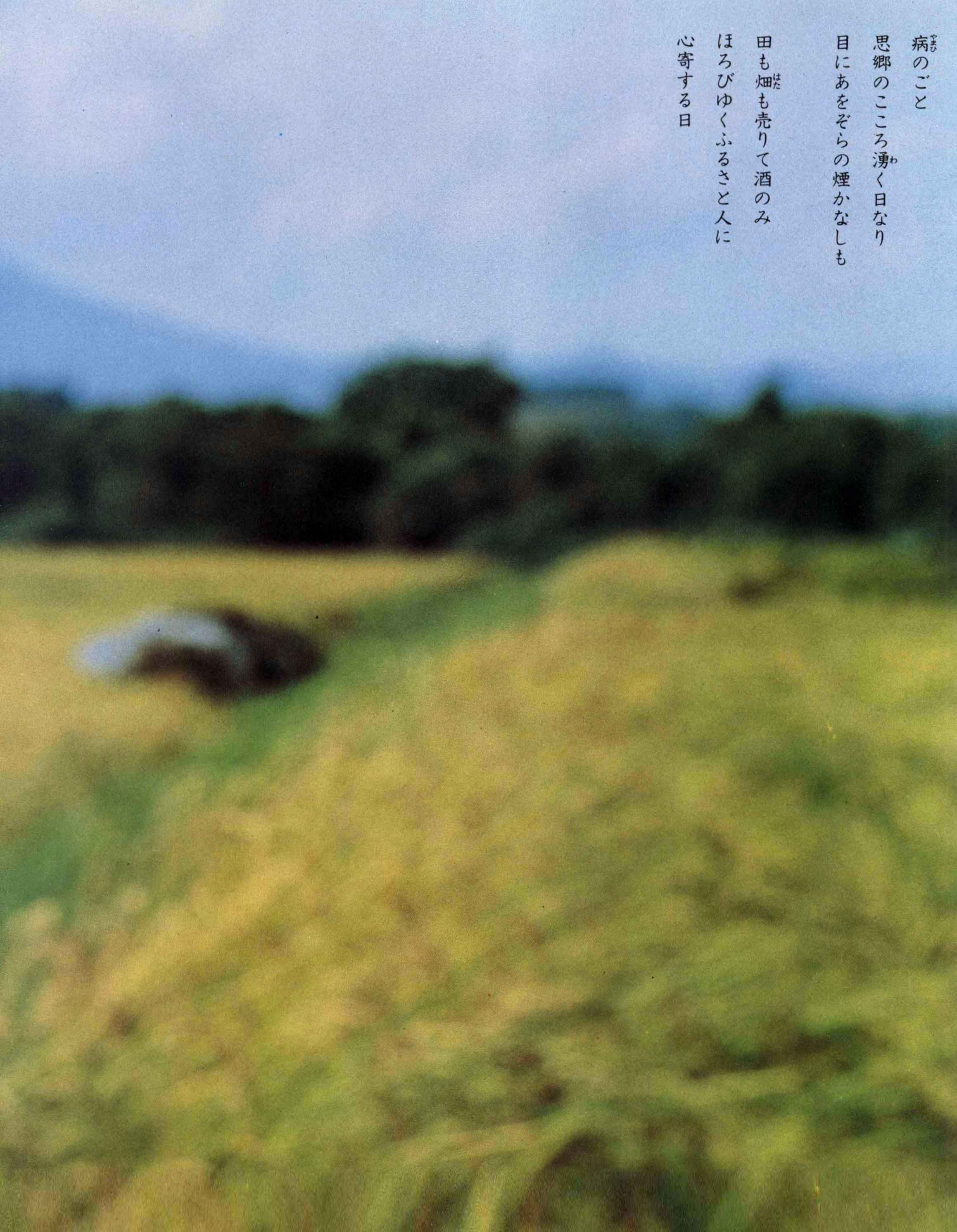
病やまのごと

思郷のこころ湧わく日なり  
目にあをぞらの煙かなしも

田も畑はたも売りて酒のみ

ほろびゆくふるさと人に

心寄する日









わが去れる後の<sup>のち</sup>の<sup>つばき</sup>噂を  
おもひやる旅出はかなし  
死にゆくごと



玉山村洪民

旅の子の  
ふるさどに来て眠るがに  
げに静かにも冬の来しかな  
そのかみの<sup>しんどう</sup>神童の名の  
かなしきよ  
ふるさどに来て泣くはそのこと